

# 大学院の紹介 (2)

## ● 入学試験準備

進学する際には、英文学、米文学、英語学、英語教育学、コミュニケーションのうち、自分はどの分野を専門にし、どの先生の指導を受けたいのかあらかじめ決めておかなければなりません。試験の直前に急に受験を思い立っても準備が間に合わない可能性がありますので、進学希望者は早めに準備を始めましょう。特に、後述する内部進学入試のように、在学中の成績を重視する場合がありますので、日頃から授業にはまじめに取り組むようにしておきましょう。

入学時から授業履修計画を工夫して立てると、将来、急に大学院に進学したくなったときでも焦らないで済みます。たとえば、選択必修科目の中から、英文学史、米文学史、英語学概論、コミュニケーション概論など、概論的な授業を履修して基礎知識を得ておくこと。これは進学しない人にとっても、演習や特講のときに役に立ちます。また、単位は楽勝かどうかではなく、自分にとって役に立つかどうか、勉強になるかどうかで判断して、賢く履修しましょう。そうしていくうちに、自分が研究したいことが少しずつはっきりしていくものです。長期的な展望で授業履修計画を立てましょう。

さらに、博士前期課程の入学試験科目になっていなくても、第2外国語については初級のみでなく、中級や上級を自主的に履修しておくのもよいでしょう（博士後期課程に進学するためには英語だけではなく、第2外国語の能力も必要になります）。仮に進学しないことになっても、語学の勉強が無駄になることはありません。

「大学院に関心がでてきた」「大学院に行きたい」等と思ったら、学部1年次や2年次等まだ受験資格がない時期でも、過去の募集要項や試験問題を見ておくのがよいと思います。

## ● 奨学金制度

大学院生向けの奨学金には、貸与型の日本学生支援機構奨学金や青山学院万代奨学金などがありますが、ここでは英米文学専攻の大学院生が応募しやすい給付型の3件をまず紹介します。

- ①「神山奨学金」(本学名誉教授・神山妙子氏による)  
海外の大学院へ留学し、将来英米文学・文化分野

で研究・教育職を目指す英米文学専攻後期課程の在籍学生で、TOEFL iBT® 88またはIELTS 6.5以上の者を対象。給付金額は200万円。

- ②「宮島中世英語英文学奨学金」(東京電機大学名誉教授・宮島澄子氏による)

文学研究科に在籍する大学院生で、中世の英語学・英文学専攻者を対象。給付金額は15万円。

- ③「ヒュー・ウィルキンソン奨学金」(本学名誉教授・ウィルキンソン氏による)

学業成績優秀で言語学またはそれに準ずる分野の研究者・担当教員から推薦がある者を対象。給付金額は50万円。

上記3件の奨学金の応募方法については4月初旬に学生生活部学費・奨学金課が行う給付奨学生募集説明会にて確認して下さい。さらに、全研究科を対象にした「青山学院大学若手研究者育成奨学金」もあります。国費留学生ではない満30歳未満の博士後期課程の大学院生を対象に、給付金額は授業料の全額です(期間は標準3年間)。

なお、奨学金のカテゴリーには入りませんが、「国際学会発表支援制度」では、全研究科の大学院生(博士前・後期課程)を対象に、国内外で開催される国際学会での研究発表時にもなう旅費を支援しています(2019年度は、国内開催時は7万円、国外開催時は15万円を上限に計最大60名)。英米文学専攻の大学院生(博士前期課程・後期課程)が学会発表を行う際、青山学院大学英文学会から旅費及び宿泊費の補助がなされます。

「アーリーイーグル研究支援制度」では、全研究科の博士後期課程の大学院生による「新領域創成型若手研究」を支援し(2019年度は、一件あたり25万円、約10件が対象)、研究活動の活性化、および、独創的・先駆的な研究の創成を促すことを目指しています。また、「ティーチング・アシスタント制度」では、博士前期課程の大学院生も含め、教員の指導のもと、学部生の授業の教育補助活動業務に携わることで大学教育への参加の機会を提供し、これに対する手当てを支給して大学院生の生活を支援しています。

さらに、全研究科の博士後期課程の大学院生を対象に、「院生助手」として雇用する制度が2020年度から始まります。これは、教育研究の実務経験を積むことができる機会を設け、経済的支援を行うことによって、大学院生が研究に専念できる機会を提供し、研究者としての能力を磨くことを目的としています。「院生助手」として任用された大学院生は、研究を優先しつつ、学部生の授業の教育補助活動業務に加え、学会活動や国際学会の運営など、上述のティーチング・アシスタントより高度な教育研究の補助業務を行います。

## ● 教員免許状

学部で取得できる教員免許状は中学校・高等学校教諭1種免許状（英語）です。1種免許状既取得者は、英米文学専攻博士前期課程において、専修免許状の取得に必要な科目を履修し、単位数を満たすことにより、中学校・高等学校教諭専修免許状（英語）を申請することができます。

## ● 学位論文等

博士前期課程では、学位（修士（文学））の取得のためには修士学位申請論文又は特定の課題についての研究の成果を提出する必要があります。初めて書く論文が修士論文だと苦勞することが多いので、進学希望者は卒業論文を書くことをお勧めします。なお、後述する「内部進学入試」合格者には、特定の課題ではなく修士学位申請論文の提出が求められています。

大学院修了後、将来は教育職や研究職、また、一般社会で専門的知識を生かせる職業につくことを、多くの人は目指しています。

## 大学院進学の問い合わせ先

17号館2階学務部教務課 大学院担当

☎03-3409-9527

